

第 1 2 期 第 4 回 府中市美術館運営協議会 会議録

- 日 時 令和 6 年 1 1 月 2 4 日（日）午前 1 0 時～1 2 時
- 会 場 府中市美術館 会議室
- 出 席 者 隠岐副会長、高橋委員、岡村委員、真住委員、金田委員、吉田委員、瑞慶覧委員、森下委員
- 欠 席 者 橋本会長、芹澤委員、水橋委員、加賀美委員
- 事 務 局 藪野館長、鎌田副館長、大木副館長補佐、尾崎管理係長、志賀主任学芸員、小林管理係員
- 傍 聴 者 なし
- 議 題 （１）諮問事項「府中市美術館の利用拡大 事業・施設のあり方」の答申書案について
（２）その他
- 配付資料 ・資料 1 府中市美術館運営協議会 答申書（案）
・資料 2 第 1 回～第 3 回 府中市美術館運営協議会 意見抽出
・（付番なし）府中市文化芸術推進計画検討協議会委員の推薦について（依頼）

■発言内容

事務局：

- ・ 1 2 名の委員のうち 8 名出席。過半数を超えており、会議が成立していることを報告。
- ・ 橋本会長は公務のため欠席。議題の進行は隠岐副会長にお願いする。
- ・ 配付資料の確認。

副会長：

（副会長挨拶）

館長：

（館長挨拶）

副会長：

まず議題 1 の資料内容について、事務局の説明をお願いします。

事務局：

（資料 1、資料 2 の内容を説明）

副会長：

それでは資料 1、答申書（案）の各項目について、1 つずつご意見を伺っていきたい。

委員：

全体を通してのことだが、「施設の整備」という言葉は出てくるが、「施設の老朽化」について言及されていない。「適切なメンテナンスを行う」というような表現で言及しておくべきでは。

委員：

今後、大規模な改修工事が行われる予定があると聞いている。工事で休館する間も美術館の存在が市民に忘れられないよう、対応してほしい。

副会長：

以前も改修工事で休館したことがあったが、どんな改修が行われたのか。

事務局：

現在、開館して25年が経過したところである。7年前に、6か月間休館し、天井の改修工事を行った。今後の大規模改修工事については、現時点ではまだスケジュールの調整段階である。

休館中は学芸員が各小中学校に出張し、作品を外に持ち出して鑑賞教室をしたり、市民に忘れられないよう事業を継続したい。

委員：

「全国的な視座」とあるが、ドメスティックなイメージになってしまう。「広い視座」というくらの表現が良いのでは。

副会長：

これまで、さまざまな展覧会を開催されていて、それを具体的に、いつ、どんな展覧会が開催されてきたのか、一覧のデータも載せた方が良い。

委員：

評価の高い展覧会がたくさんある。地域の作家の事績を掘り起こす展覧会も行われている。全国的にもその活動は認められていると思うので、この答申書にも「認められている」と堂々と書いてほしい。

副会長：

「人気の高い作家・作品を紹介する～」「子どもたちを対象とした～」「新たな視点から～」「地域の作家を掘り起こす～」とあるが、それぞれ具体的な展覧会の名前を、この2年間分だけでも良いので載せてほしい。

委員：

この答申書は市民目線で書かれていると思うが、美術の専門家・研究者の間での評価も高い、ということにも触れてほしい。

委員：

外部の評価は高い、ということはもっと強調して良いと思う。

委員：

市民ギャラリーの利用状況についても、具体的に記載してほしい。

副会長：

具体的に、市民ギャラリー何件、公開制作何件、とか。

委員：

具体的な数字を記載した方が良いと思う。

委員：

「オンラインの活用」に関して、オンラインでコレクション作品を観られるようにできないか。

委員：

ホームページで、作家名が載っていて、クリックすると作品の紹介が観られるようになっているが、使いづらいと感じる。

事務局：

コレクション作品を検索できるデータベースを公開しているが、ホームページ構造上わかりづらい位置に掲載されているので、今後改善したい。

副会長：

「動画の配信」「双方向通信による講座」については、現在どうなっているか。

事務局：

展覧会や所蔵作品を紹介する動画配信は継続して行われているが、コロナ禍を契機に導入された双方向の講座については、コロナ禍が収束した現在は、新規の講座は行われていない。

委員：

オンラインの活用に関して、Wi-Fi の全館対応は必須。

委員：

以前にも要望したが、公開制作室の Wi-Fi 対応も合わせてお願いしたい。

委員：

「不登校児童生徒」について、「高齢者」や「ハンディキャップのある方」と同列で記載されているが、不登校児童生徒のいる家庭にはセンシティブな方々も多いので、以下のような記載にしてほしい。「高齢者や遠隔地居住者、ハンディキャップのある方など、美術館に来る上で何らかの障壁を持つ人々も存在する。さらには、美術や美術館に興味が無い人々、また、不登校児童生徒など、通常の教育普及活動に参加しにくい人々もいる。」

不登校児童生徒に対しては、タブレット PC を利用し、市の施設をヴァーチャルに訪問体験できるようなシステムもできあがっている。その中には美術館も含まれている。

委員：

「これまで美術館は「美術館に来る人」を対象に事業を展開してきた」とあるが、「美術館に来る人」を「主に」対象としてきた、ということであって、決してそれ以外の人をないがしろにしてきたわけではない。そのような、「潜在的な来館者層」の掘り起こしをしていくことが必要。

委員：

「美術館を利用しない市民」「存在を意識していない市民」とあるが、ネガティブな印象を与える。「潜在的に関心を持つ可能性のある方」と言い換えられるのでは。

館長：

美術館に初めて来る人、というのは、身近な人からの誘いなど、ほんのささいなきっかけがあって来るものだと思う。

赤ちゃんと親御さんを対象とした「はじめてアート」というプログラムもその一つで、子連れで美術館に来て良いのだろうか？と不安を感じる親御さんに、来て良いんですよ、というメッセージを発信している。

副会長：

ボランティアは具体的にどのような活動をしているのか。

事務局：

公開制作のガイドスタッフや、アートスタジオ、ワークショップの運営補助等をお願いしている。

副会長：

友の会はあるのか。常設展のボランティアガイドは。

事務局：

友の会はない。ボランティアガイドはないが、「あーちゅびー」という団体による対話型鑑賞プログラムを実施している。東京都美術館のボランティアガイドをしていたメンバーを中心とした団体である。

委員：

そういったプログラムは、できれば外部にお願いするのではなく、美術館の中の人をお願いしたいと思っている。

事務局：

必ずしもインハウスで全てを解決しようとするのではなく、棲み分けも必要。

委員：

私の美術館では、展示解説は地元の観光協会と連携している。

委員：

美術館と参加者がともに充足感を得られるようなシステムの構築を。

副会長：

「１００年後に残るコレクション」という表現について、１００年後私たちは誰もいないが、この表現で良いのか。

委員：

「コレクション購入のための基金の計画、継続が必要不可欠である」という内容を盛り込んでほしい。

委員：

美術館の発展のために、美術館としてのミッションを市民の方々にはっきりと伝えていくことが必要。

副会長：

以上、時間となったので協議を終了し、事務局へ戻す。

事務局：

ありがとうございました。

ご指摘のあった部分を修正し、再度皆様にメールでご確認をお願いする。最終的な確認は、本日欠席の橋本会長と隠岐副会長にお願いしたい。

副会長：

事務局より説明のあったとおり、会長と副会長で最終確認させていただくことでよろしいか？

（異議なし）

異議なしということで、会長と私で確認する。

続いて議題（２）について、事務局より説明を求める。

事務局：

（資料「府中市文化芸術推進計画検討協議会委員の推薦について（依頼）」について説明）

この検討協議会の委員を、美術館運営協議会から１名推薦してほしいとのこと。任期が１２月から、となっているため、本来は来期の美術館運営協議会の委員の方々にお伺いすべきところ、回答〆切が１１月２８日までとなっているため、現委員さんの中から選出したい。

これについて事前に橋本会長に相談したところ、橋本会長から「自分で引き受ける」との回答を得た。来期も美術館運営協議会委員に再任される方は、橋本会長、岡村委員、真住委員、瑞慶覧委員の計4名いるが、美術館運営協議会から橋本会長を推薦するということによろしいか。

副会長：

事務局の説明のとおり、橋本会長を推薦するということでは了承いただけるか？

(異議なし)

それでは了承とする。

以上で本日の議題を終了する。

— 終 了 —